**いとうせいこう×奥泉 光**

**＜文芸漫談シーズン４＞**

**野坂昭如「エロ事師たち」**

この企画は、いとうせいこうと奥泉光が、小説の面白さを、笑いを取りながら伝えたいと、漫談形式で始めた文学ライブです。

芥川賞作家と稀代の仕掛人が捨て身でおくる、漫談スタイルの超ブンガク実践講座。

*小説の書き方・読み方がクスクスわかる？かも！*

作家・クリエーターとして活躍する“いとうせいこう”と、芥川賞作家であり大学教授の“奥泉光”による耳馴染みのない『文芸漫談』なる公演が、成城ホールで行われる。

この公演は、下北沢の北沢タウンホールで2006年から年3回のシリーズで行ってきたもので、今回はその41回目。お題は野坂昭如の『エロ事師たち』。

内容、構成はいたってシンプルで、文学作品を題材にし、笑いを盛り込み、二人で作品を語っていく、漫談形式のトークショーです。

同類のトークショーのように、作品への理解を与えることにこそ違いはないのですが、そこに、博学がユーモアをまとったような二人の『笑い』が入ることにより、お客さまの興味をより深いところまで誘い、“豊かな文学”になるのでは、との試みです。

今回の「エロ事師たち」は、享楽と猥雑の真っ只中で、したたかに棲息する主人公・スブやん。他人を勃(た)たせるのはお手のものだが、彼を取り巻く男たちの性は、どこかいびつで滑稽で苛烈で、そして切ない・・・・・
何だ、それなら知っているよ！と、言われる方も、二人の手にかかると、こんな読み方もあったのかと納得いただけるものと思いますよ！

出演■**いとうせいこう×奥泉 光**

日時■**2017年7月4日（火）19：00開場／19：30開演**

料金■2,500円（全席自由）※開演の1時間前より入場整理券を発行します

会場■成城ホール（☎ 03-3482-1313）世田谷区成城6-2-1

　　　　　　小田急線「成城学園前駅」下車徒歩5分

ﾁｹｯﾄ問合せ■Ｋ・企画　（☎＆FAX 03-3419-6318）

　　　　　　　HP <http://k-kikaku1996.com>

　　　　　　　E-mail <bungeicomic\_4@k-kikaku1996.com>

　　　　　■成城ホール　（☎ 03-3482-1313）

　　　　　　　HP <http://www.seijohall.jp>

　　　　　■北沢タウンホール（☎ 03-5478-8006）

　　　　　　　HP <http://www.kitazawatownhall.jp>

　　　　　■イープラス

　　　　　　　HP <http://eplus.jp/>

主催■成城ホール（アクティオ株式会社）

企画製作■舞台よろず相談所 Ｋ・企画

**『エロ事師たち』梗概**

お上の目をかいくぐり、世の男どもにあらゆる享楽の手管を提供する、これすなわち「エロ事師」の生業なり――

享楽と猥雑の真っ只中で、したたかに棲息する主人公・スブやん。他人を勃(た)たせるのはお手のものだが、彼を取り巻く男たちの性は、どこかいびつで滑稽で苛烈で、そして切ない……

正常なる男女の美しきまぐわいやオーガズムなんぞどこ吹く風、ニッポン文学に永遠に屹立(きつりつ)する傑作。

**『エロ事師たち』あらすじ**

『人間生きる楽しみいうたら食うことと、これや。こっちゃの方があかんようになったらもう終りやで』

スブやんこと、緒方義元は、いつも口ぐせのようにこうつぶやくと、エロと名のつくもの総てを網羅して提供することに夢を抱いている。

スブやんは、関西のある寺に生れたが、ナマグサ坊主の父親とアバズレ芸者の義母の手で育てられた。高校を卒えて大阪へ出て来たスブやんは、サラリーマンとなったが、ふとしたことからエロ事師の仲間入りをしたのがもとで、この家業で一家を支えることになった。

彼の一家とは、彼が下宿をしていた松田理髪店の女主人で未亡人の春と、彼女の二人の子供、予備校通いの幸一と、中学三年生の恵子である。

スブやんは、春の黒髪と豊満な肉体に魅かれてこうなったのだが、春にとっては、思春期の娘をもって、スブやんを間に三角関係めいた、もやもやが家を覆い、気持がいらつくばかりだ。

そして歳末も近づいた頃、遂に春は心蔵病で倒れた。

スブやんは、病人の妻と二人の子供をかかえて、動くこととなった。

仲間の伴的は、暴力団との提携をすすめたが、スブやんは質の低下を恐れて話を断わり、8ミリエロ映画製作に専念した。

その映画とは、実の親が娘を犯すといったもので、さすがのスブやんも考え込んでしまった。

帰宅するとスブやんは、恵子の様子が気がかりで仕方がなかった。

その夜スブやんは、ニュータイプの器具から足がついて、警官に拉致された。

その頃、春の病状は思わしくなかった。春は、幸一のバリ雑言の中で、スブやんの仕事を信じていた。

出所したスブやんに、また生気が甦ってきた。

数日後、酔いつぶれて帰って来た恵子に、スブやんはいとしさがこみあげて来た。

『緒方はん、いたづらしはるねん』

恵子の言葉に、死期の迫った春には、返す言葉もなかった。

事の成りゆきを知った幸一は家出した。

4月、春はスブやんの子供を妊ごもったまま、恵子の写真を針でつきながら死んでいった。スブやんは、春と恵子を愛し、幸一をも案じながら年をとっていった。

それから5年、美容師に成長した息子の側で、白髪のスブやんは、エロ事師一世一代の仕事の植毛に眼をすえていた・・・・・。

**野坂昭如　＜1930年〜2015年＞**

早稲田大学第一文学部仏文科中退。

小説家として「火垂るの墓」（直木賞）「エロ事師たち」「骨餓身峠死人葛」「マリリン・モンロー・ノー・リターン」「赫突たる逆光」「同心円」（吉川英治文学賞）「文壇」（泉鏡花文学賞）などの発表。

コラムニストとして「エロトピア」「我が闘争 こけつまろびつ闇を撃つ」（講談社エッセイ賞）などを執筆。

作詞家として「おもちゃのチャチャチャ」（日本レコード大賞童謡賞）「ハトヤの唄」などを発表。

歌手としては「黒の舟歌」「バージンブルース」などがある。

元参議院議員、衆議院選挙新潟三区立候補者。

伝永井荷風作「四畳半襖の下張」を雑誌に掲載した編集長（わいせつ文書販売で有罪判決）。

討論番組やＣＭに出演するテレビタレント等々、多面的な活躍で知られた。

2003年5月脳梗塞で倒れてのちもいくつもの連載を持つなど作家活動を続ける。

『絶筆』には、急逝のわずか数時間前まで取り組んだ絶筆までを収めた。
2015年12月。心不全のため死去。８５歳

**出演者紹介**

**【いとうせいこう】**

1961年、東京生まれ。 早稲田大学法学部卒業。 作家・クリエーター。

『ノーライフキング』で小説家としてデビュー。

その後『ワールズ・エンド・ガーデン』『解体屋外伝』『豊かに実る灰』『波の上の甲虫』などを執筆。

2013年『想像ラジオ』で第35回野間文芸新人賞受賞。

最新作『鼻に挟み撃ち』（2013年すばる12月号）で2度目の芥川賞候補にノミネート。

主なエッセイ集として『見仏記』（共作／みうらじゅん）『ボタニカル・ライフ』などの他、舞台・音楽・テレビなどで活躍。

公式HP＝http://www.froggy.co.jp/seiko/

**【奥泉 光】**

1956年、山形生まれ。国際基督教大学大学院修了。小説家・近畿大学教授。

主な小説に『ノヴァーリスの引用』『バナールな現象』『「吾輩は猫である」殺人事件』『プラトン学園』『グランド・ミステリー』『鳥類学者のファンタジア』『浪漫的な行軍の記録』『新・地底旅行』『神器—軍艦「橿原」殺人事件』などがある。

1993年『石の来歴』で第110回芥川賞受賞。

2009年『神器—軍艦「橿原」殺人事件』で第62回野間文芸賞を授賞。

2014年『東京自叙伝』で谷崎潤一郎賞を授賞。

公式HP＝http://www.okuizumi.com/